

近世・近代社会経済資料（古文書）デジタルアーカイブについて

- (1) このデジタルアーカイブは、東京大学経済学図書館が所蔵する近世・近代社会経済資料のうち、古文書類について順次デジタル化をすすめているものです。
- (2) このデジタルアーカイブの利用に際しては「[東京大学経済学図書館電子資料利用規則](#)」に同意したものとみなされます。
- (3) 印刷物など他媒体への使用については、東京大学経済学図書館までお問合せください。
- (4) 画像は白黒です。文書原本の朱書や裏書、端裏書、裏継目印、前欠・中欠・後欠の部分、丁間に挿入された文書や脱落した付箋については、画像内に「朱書」「裏書」「端裏書」「裏継目印」「前欠」「中欠」「後欠」「挿入文書」「脱落付箋」などの置き札を写し込んであります。また、原本が破損し撮影が不可能な場合や、白紙が何枚も続く場合には、「以下破損につき撮影不能」、「以下〇丁白紙につき撮影省略」などのターゲットで明示してあります。
- (5) 画像の撮影には文字が視認できるよう十分な注意を払っていますが、資料の欠損、変色、褪色等の劣化や、ノド部分の状態によっては、原本の文字が全て写っていないものがあります。これらについては資料の原形を保ちつつ、出来る限りの範囲で撮影したものとして了解下さい。写りの悪い文書については、東京大学経済学部資料室にて、所定の手続きにより原本の閲覧をお願いします。
- (6) 文字間のコントラストの差が大きなものについては、視認性を高めるために、照明を調整して複数回撮影しています。この場合は、同一の丁の画像が複数枚連続して表示されます。
- (7) 本アーカイブに関する質問等については、東京大学経済学部資料室までお問い合わせ下さい。
- (8) 本デジタルアーカイブの一部は、独立行政法人日本学術振興会平成 25 年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）課題番号 258061 の交付を受けて作成しています。

院内銀山記校書



40010



一、當山よりおのそわくの書物をとて只留關歩
 とて遠く海を舟出し、北江を遡るる山師名茶
 村山、市、車、渡、遠、播、磨、の、東、江、と、名、茶、の、石、山、傳、師
 の、山、と、名、茶、の、鐵、匠、と、名、茶、の、伊、勢、氏、氏、氏、の、尾、張、氏、氏、氏、
 大、坂、久、氏、氏、の、家、賀、氏、氏、氏、の、京、と、名、茶、の、江、見、氏、氏、氏、
 雅、波、氏、氏、氏、の、播、磨、氏、氏、氏、の、伊、勢、氏、氏、氏、の、お、も、氏、氏、氏、
 備、前、市、氏、氏、の、丹、後、氏、氏、氏、の、加、賀、氏、氏、氏、の、鐵、匠、氏、氏、氏、
 近、江、氏、氏、氏、の、伊、勢、氏、氏、氏、の、江、井、氏、氏、氏、の、赤、坂、氏、氏、氏、
 東、安、坊、氏、氏、氏、の、お、も、氏、氏、氏、の、江、見、氏、氏、氏、
 山、師、氏、氏、氏、の、お、も、氏、氏、氏、の、江、見、氏、氏、氏、
 下、江、氏、氏、氏、の、山、井、氏、氏、氏、の、お、も、氏、氏、氏、

余久山留前時留おし後人七百余人 哲子
池之園にたつね通いなるに多し余人 右忠合
七百余人大機記一傳へ

一本書長十七年八月廿九日 院内張山山中園歩
中より人園いそ令にふむあ人但留を年
あせうれ女を分ふいは是は遊人なりい
たふ書版より此所よりと板ねた

一張山記を長十二年とる 追々後人事 余あり事
傳ふやたふ家より方園を余よりふむと
七人より小書おし後事 張山より

成瀬七書 古口書中 井口書 山州井口家のより
園を余より事

井口十書 張山山中園歩
湯傳ふ事 中村上元書 園を余より湯傳
ふ事

書 佐州武田より 書 武田家より
書

古田書 是安傳の元 井川仙書 是安の元

大仙書 張山より此書武田より
しと園を余より此のより 澤田書 佐州の
より

子賀書 生々常州に遊定 中本より書 常州或人
澤田書 定念祥定門

少書より書 常同書 関 今市 雲州

平井辻市

和国主重

劫盗

橋本持重

神前源良清

大坂の時亦八景介年大坂幕伏を遁亦の時
才三と云此門事二世室三年八十歳と云

石州より坂前共の二留より一減七の
後仙小上師事重富所より一減室公の
此の年月より云々と云

戒定是根を口生

石田（重事）

難波治重

（重）

備前より云

父八景所より云

（重）

昌平源吉史 同刻

伊達元（重名）伊達之大坂より事、云々

伊達武家より云

江表重信

加州の重人

平少次郎

後相親後重

（重）

星家茂重

戦後館城の星家、重事入居重平後宗清之
重事七年加州と云人門十二年此門より事

十一人より云々長吉五重めを所を

去と云後重より母の所病より事

茂重、病能事此門め重人増田の佐小重

重重所より事云々之云。重重より家

智より云々云々成、以唐之年より

二村重信

秋之重事

（重）

川村八百重

能事の重事

（重）

二宅氏の言

如州

山原尾少

如州の志方一
苗田の志方一

地台

石橋

散後正徳の室に長十九の月日知り是
寺の幅に高血林に傳一門廿年大坂
とて道水事 治定 秋日丹楓居士

鴻運社知日幅に白鳥人

長二十一年
日月亦之通化

田村即邊

米の長五ヶ次龍城同年十月大坂龍城門廿
年大坂と長五田の如所道通之如志年從
門の事 田村と名邊 保科の事 留られ

桐里山九家

定例あり 淫言と云はる 由政易の淫
言の如く之の如く十二年の如く又淫
言の如く 淫言と云はる 淫言と云はる 淫言と云はる

丹山洞書

山原の博と云ふ 田村の如く 入るに云
米の如く 長十九年と云ふ 痛の如く

一七二八年の生れ

九段の如く

武州水元 丹山
田村の如く 水井 作家
山原の如く 之なり

布衣の如く

散後二六の如く
水原 九郎
痛の如く 生家
カニコト

神保加月

伊勢九郎

加州

上野と安房

尾の所流無之方

秘葉角を更

仙の二門伊賀
上野と安房

上野と安房

福山丸山とありて酒を来きなり飲
之和七年一飲也

伊賀久家

いせの藩人利發して聖とて還俗境内
之を下流人内流作以來あり

上野と安房

吉田市邊

我が元福山寺
山之下成

伊賀久家

大谷殿の元
山之と成

吉田市邊

捕所

猪苗代家玄

是等名の元上玄の時猪苗代と
生捕れ助り生家

吉田二順

いせ二宮の十年
万と云ふなり

吉田市邊

上野と安房
吉田市邊の九十一とあり

新田十郎

吉田

松升市邊

上野と安房
松升市邊の九十一とあり

一升 權家

尾の所流と権家湯解とありて吉田市邊の十年
かひと云ふなり

吉田和家

能書一ノと云ふなり
能書一ノと云ふなり

富田平家

か州富田城後より一門之田流し名人と細ありて仙
山と云ふなり

園幡 七人 下綴 七人 濱波 七人
 上綴 七人 伯耆 八人 上綴 七人
 紀伊 八人 伊豫 八人 對馬 八人 上綴 七人
 下野 八人 見之 八人 河内 八人 上綴 七人
 見之 八人 河内 八人 上綴 七人

眞所

二本 八人 山崎 七人 金澤 八人
 山崎 八人 田村 八人 仙臺 八人
 福崎 八人 九人 有義 八人 白川 八人
 津原 七人 七人 七人

出羽

庄内 八人 庄内 八人 庄内 八人
 庄内 八人 庄内 八人 庄内 八人

以上各所 各所 各所 各所 各所

一年月を以て村山宗家 宗家の名を以てか賀屋 八人
 宗家の名を以てか賀屋 八人 宗家の名を以てか賀屋 八人
 宗家の名を以てか賀屋 八人 宗家の名を以てか賀屋 八人
 宗家の名を以てか賀屋 八人 宗家の名を以てか賀屋 八人
 宗家の名を以てか賀屋 八人 宗家の名を以てか賀屋 八人

山崎 八人 山崎 八人 山崎 八人
 山崎 八人 山崎 八人 山崎 八人

近江
 加賀
 此年月不詳
 石見
 山陰

院内諸山寺院之事

延命寺	真言宗	宝泉寺	真言宗
金剛寺	真言宗	一心寺	一向宗
法王寺	一向宗	光孝寺	一向宗
世王寺	一向宗	聖王寺	淨土宗

本妙寺 日蓮宗
 玄徳寺 淨土宗
 龍王廟寺 淨土宗
 東安山

台於寺々々

古寺院等長之和久遠に建てる人々

秋田縣雄勝郡
院内銀山町住人
林貞治